

山東菴京山作

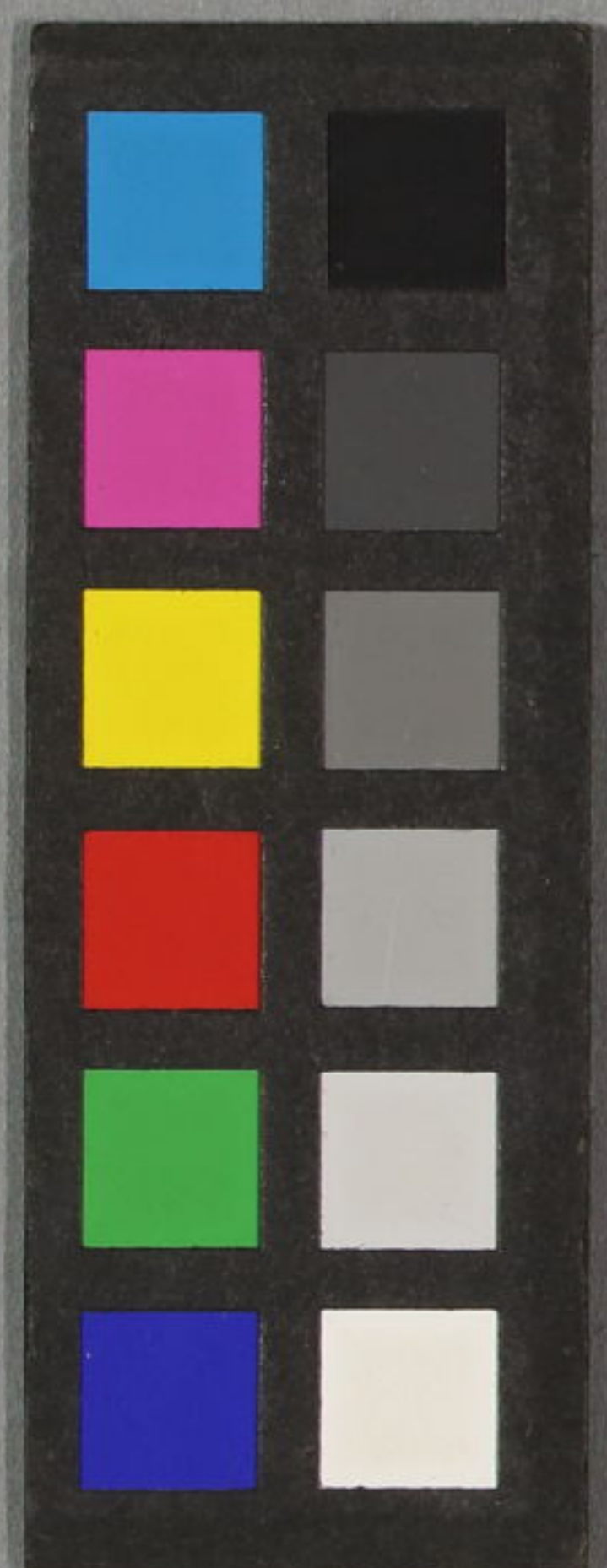
女房衫氣三編
上卷

歌川豊國画錦摺当様

へ 13

3703

3



京山佐



教女房形氣三編



豊國画

女房形氣
三編下卷
弘化丁未新板

王勃もひま織て袖と通し筆小耕して食ひ
 とうやさきは湖上の笠翁が十種九種の曲と書
 肆のあつらんおやあやせんう柳のまゝ過て足を押史
 の草澤に踏ちを採る名の袂とよと事わ
 けやうでふもきと今所るみんと洗濯もあやふど乃
 林のなれき守おちあや啼くと編の女房形氣えん
 きのはのむいとりうふいさまさうぐやまのどしやも
 がるとて王勃もあやあやおがはるるき筆もを採ぬる

弘化三年丙午仲夏稿本同仲秋上梓
丁未正月の新板とすと

山東菴京山



卷之五

[illegible]

第四

田中重光

卷七




 卷之十七
 七十七

[illegible]

あつち



七
子
弟

おそむつとあまきこの目ふ①



 四 きりやうり
 とうけい
 ことと味せん
 ととり下こ
 ももちこ
 てうちをもち
 お小ま
 るま
 まふちのとさんののり
 るまふちのと
 ありやのふあり

位

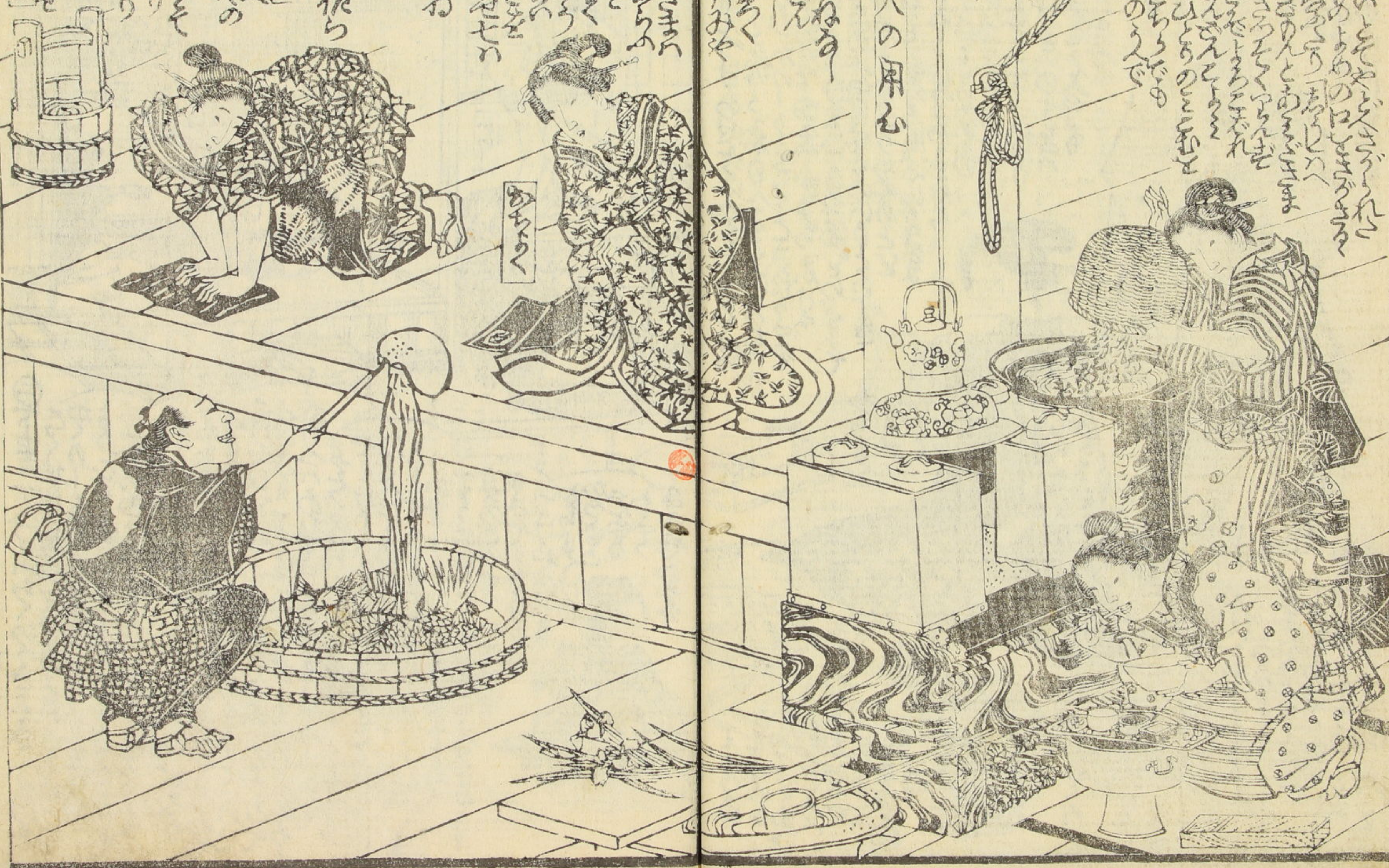
〽たかひなつらつのとそやどとさうられ
 せうごのやまうののよめのはせうさうさう
 おねがうううううううううううう
 ころころころころころころころころ
 のちひさしあなうううううううう
 やややややややややややややや
 ませううこれあえんせんてよめ
 りてでござれとひとものことむと
 かやうくまうてあういふ
 ころころころころころころころ

廿二日
 幸うめいかけぬ
 うぐいさえん
 おてうがき
 ぬいさうとあう
 星の口とありみや

ひさしはすれぬまゝ
大いなるついであらふ
おんくもせんと
おもてゆくかちとく
のちのあそびなりとう
づぐるものなほよめ
うけしやうきをぞ
ともあけれのちせり
かともたぐむ
酒ちやう々わ
しきうらけり

中五元

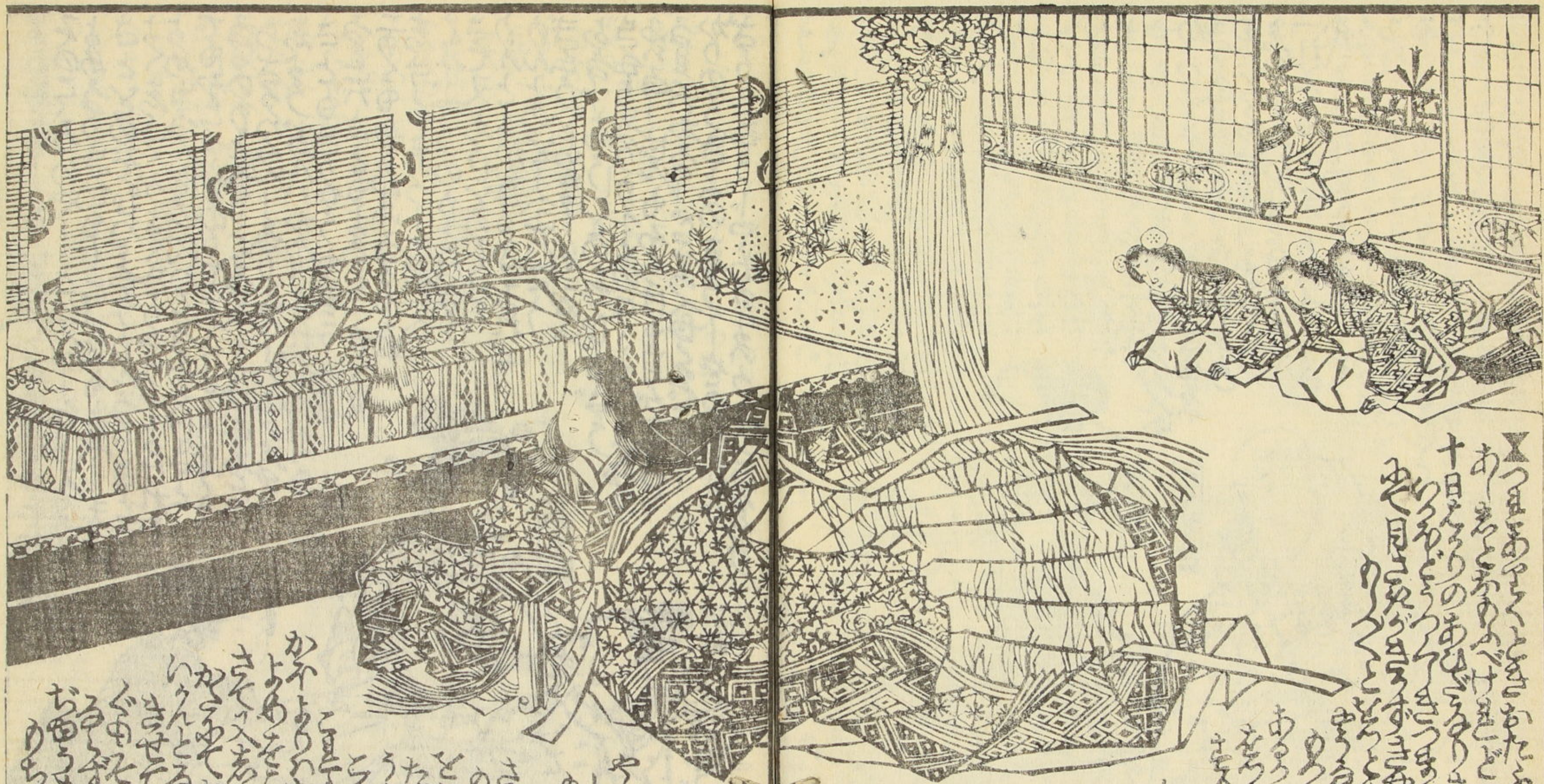
けとめ付や依ら
るゑんひてへ
おちおきこ
人中て二ツう人
るるあかあかの
あときつきて
けやせんまを
うてくるるけり
ののそそき
さそふのそ
そふのそ
あかあかの
まろあ



③おちろこれと
 きのておちろこれと
 大さるのびつもの
 ④おちろこれと
 きのておちろこれと
 大さるのびつもの

④ あちうと「ちうとちうと」
 んまよ「ちうと」
 よめを度が
 ゆふふふふ
 うふふふふ
 さとちふふ
 あてこれ直
 まものむむ
 まふふふ
 さとちふふ
 一のまふふ
 ちちやと「ちち
 ⑤ あちうとこれと
 まのて「ちちうと」
 ふふふふふ
 まふふふふ
 ゆふふふふ
 ちちうと「ちち
 ⑥ あちうとこれと
 まのて「ちちうと」
 ふふふふふ
 まふふふふ
 ゆふふふふ
 ちちうと「ちち

[illegible][illegible]



又つ且あやうと云ひわたるくあやうと云ふのあ
 ぢあやうとあやうと云ひわたるくあやうと云ふのあ
 十日と云ふのあやうと云ふのあやうと云ふのあ
 又て月と云ふのあやうと云ふのあやうと云ふのあ
 りてと云ふのあやうと云ふのあやうと云ふのあ

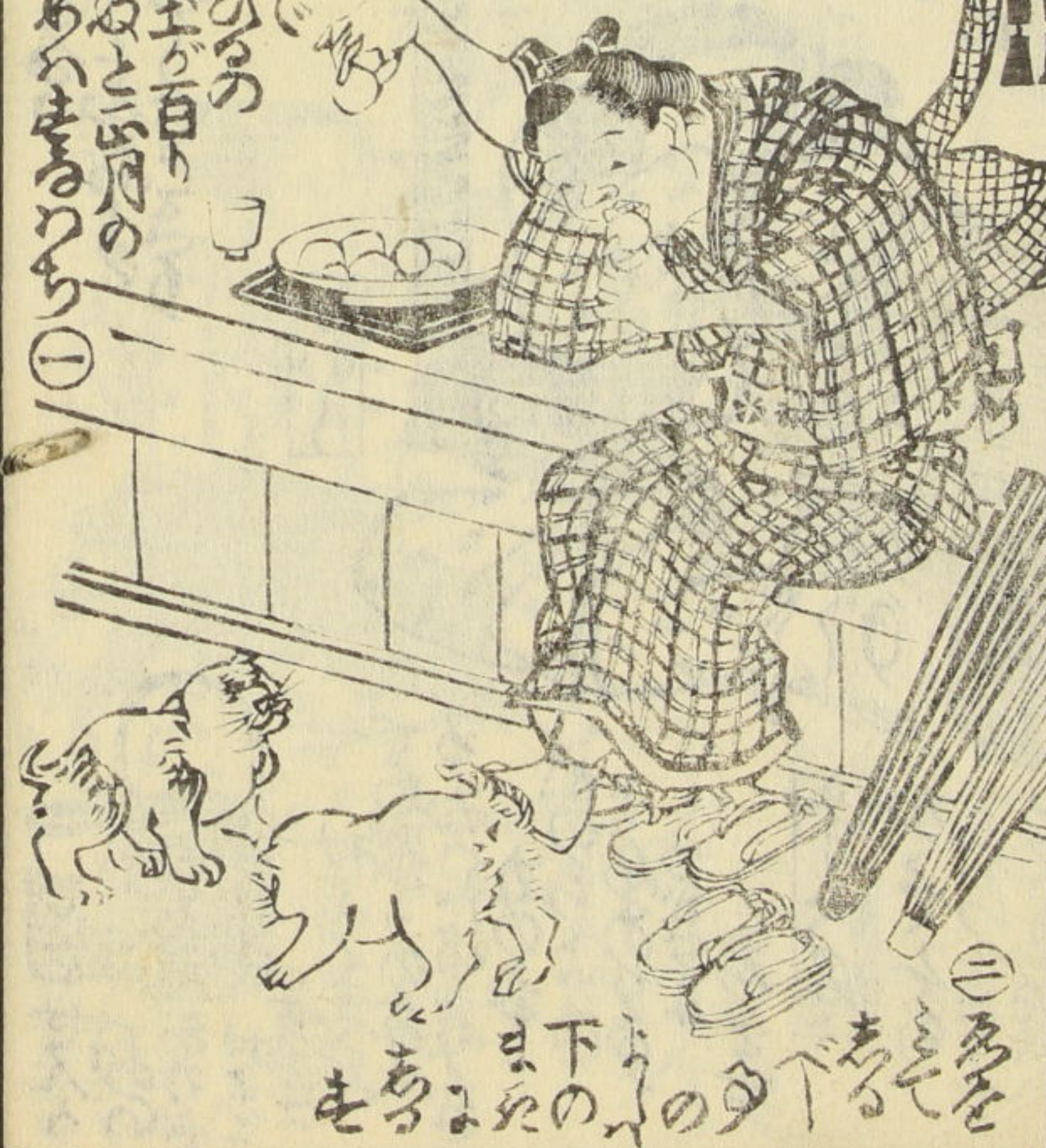
まうきやんのきうさるつまを
 めんこの入一札のさるつまを
 あらうあるべきをさされどつまを
 をちとよりやがさされバクう
 まるとさるつまをありあま
 ありをちとさるつまを
 人かきやばさるつまを
 けんがよとのさるつまを
 りうのさるつまを
 まうてあまんとあま
 かなのさるつまを
 たどんふ目さるつまを
 うとやばさるつまを
 人かきやばさるつまを
 さるつまを
 国王もけんあまを
 由あるこの女さるつまを
 りよりあまを王と
 のさるつまを

由あるところ世のみな
 たるるふふあいのふふ
 りききとあるけのまゐる
 ずいとうり玄宗が
 ずきひめてらふやうひさ
 とらううううり又目の
 りとめてらあんなうう
 ころ人のあるところ
 さうあんなううの所と
 りとひのここと天と
 とのこめてむんさんと
 ちけふふふひとあうあ
 ううたまたひもちあ
 くらうううある
 こまのあふつけても
 かふりのありてふと
 よめをそのむべけ
 さて入るそのむい
 かてかをむあ
 いんとるむい
 きせてやうなるむ
 ぐもそまううう
 るふふあるとと
 ちあううあふふ
 りちてううりてうう
 決へ

ことゝへすふら六とらう
あのころうちあつたとさうあやが
よあふりじやアごせんせんうのこ下月
がひきそく「のなまそりけい」をふるまう
でもさうでうちあか一か考かう
「さうさうは」のふもあふたびく素
うくふさふさよにきくふさふさふさ
せやくかくかきまきしれもなふあねを
うけあひやぶさとうちとつあひぬとらふで
あつちあつち「休らあめん」そりやゆるこのあ
なほとらふさう「一の二年はあつかんあつて王が百
はふさある」よくことゝへさるにもあつたといふ月の
ふさふさふさとうちとらふさするむさあひまるり



京山作

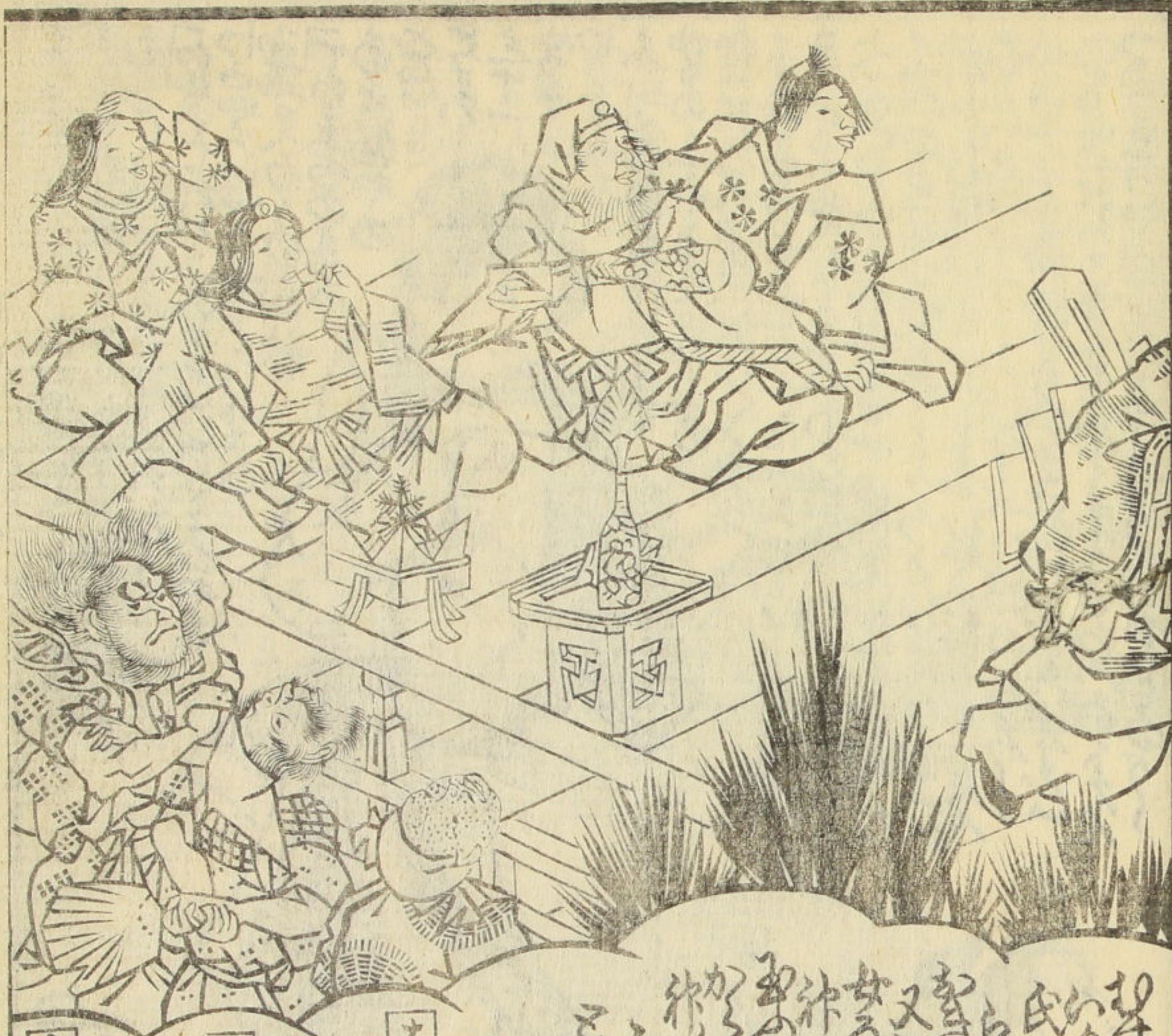


(三) 夢を
下りの夢を
下の夢を
夢は夢を

[illegible]

女房形氣二編下の巻

○才七

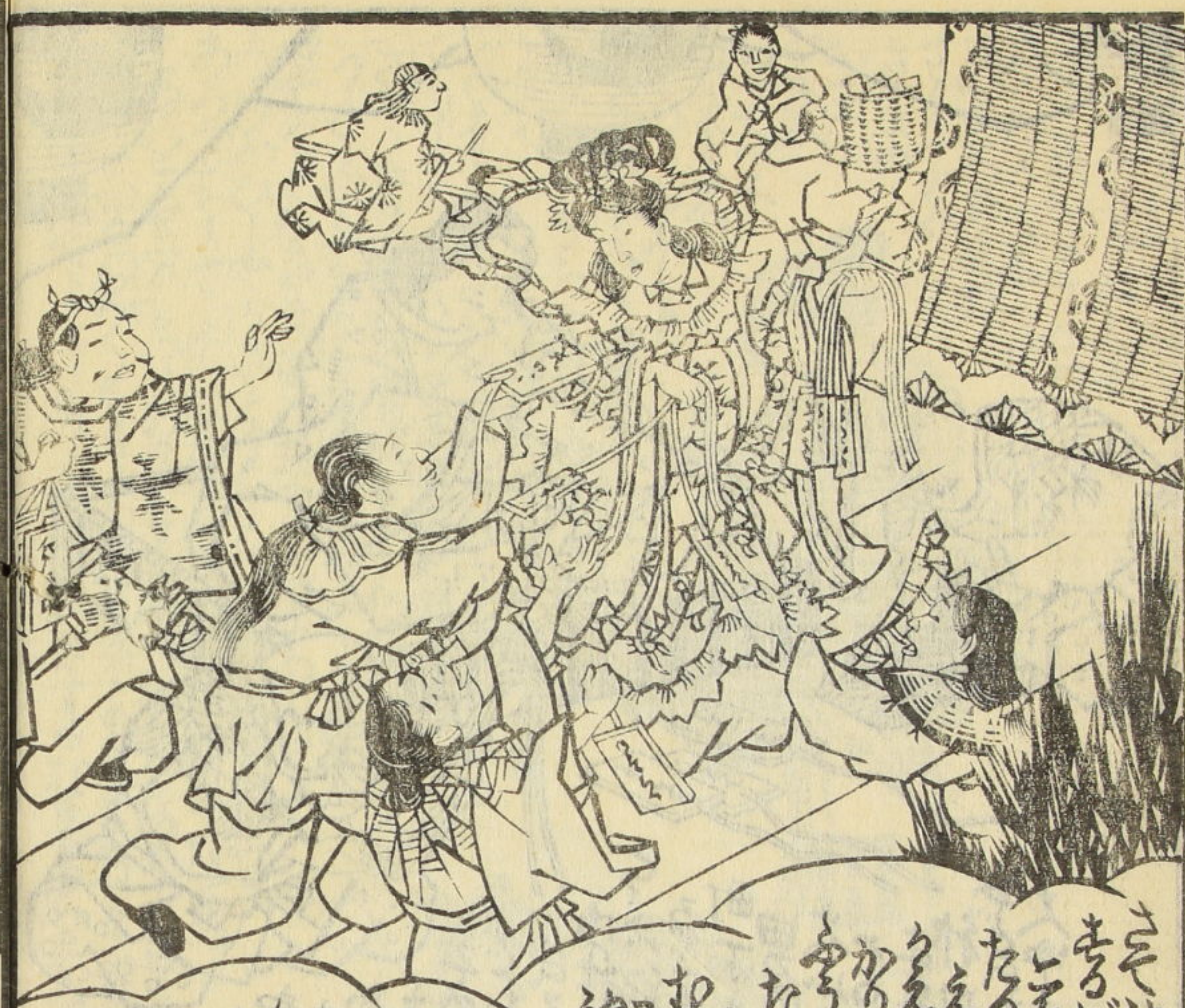


中
じ
毎
日
休

びんぶ祿

右の如く

母のち二つものどちらを
 もむすべからざるけれ
 ばとておひきうとこれに又
 りのふせんとれたとてうちを
 ころせけりけりわんも
 ころせけりわんもわんも
 六外さまれとさけて
 るとておひきうとこれに
 母のれいちのさたおまのふ
 くりおひてのちさうちさ
 どもかつるむむとて
 なきとてかたふ入道とて
 するむちのうさうはなは公
 男とのさたあるむのあま
 どうあてうかむの
 右のれい直とて
 三あくはうとて
 氏子おひのとちやの
 むすあうつとて
 うけおひとて
 よあめのはるいなる
 十八名にあたるあ
 るのうけおひ
 とうやでも

[illegible]

一

一

[illegible]

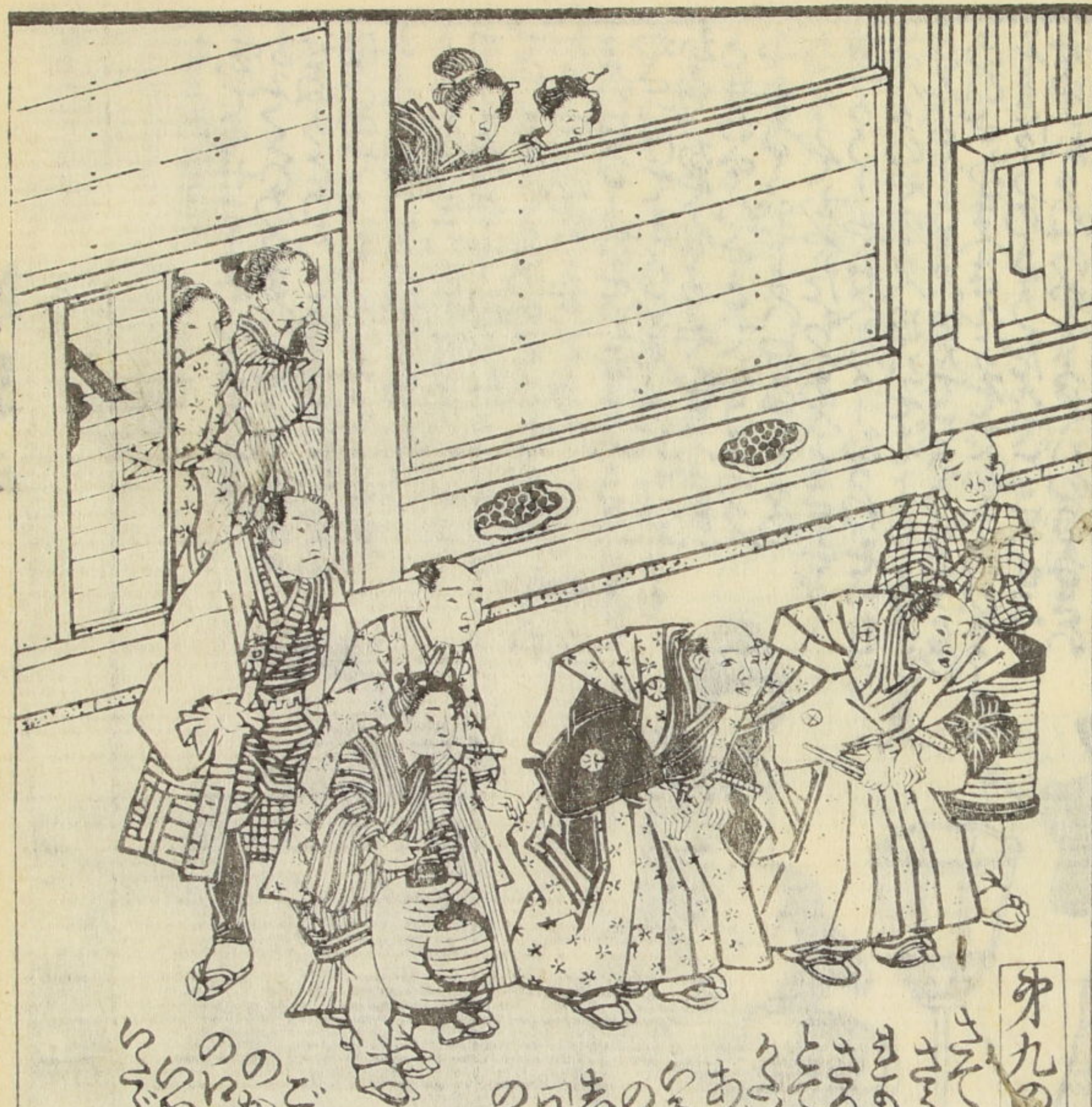
おろね母

みぎの
まがひの
あつた
うしろの
いさぐさ
もあらう
ちりめ
おの袖の
かんざし
つけて
よめる
ふくやう

○あまた世の中のかんがへ
はるばるとなだつてゆくそのか
かのうらもわき氏神さまよく
ねをのみそむすびありあか
るうらなひけちなるものも
づふとて

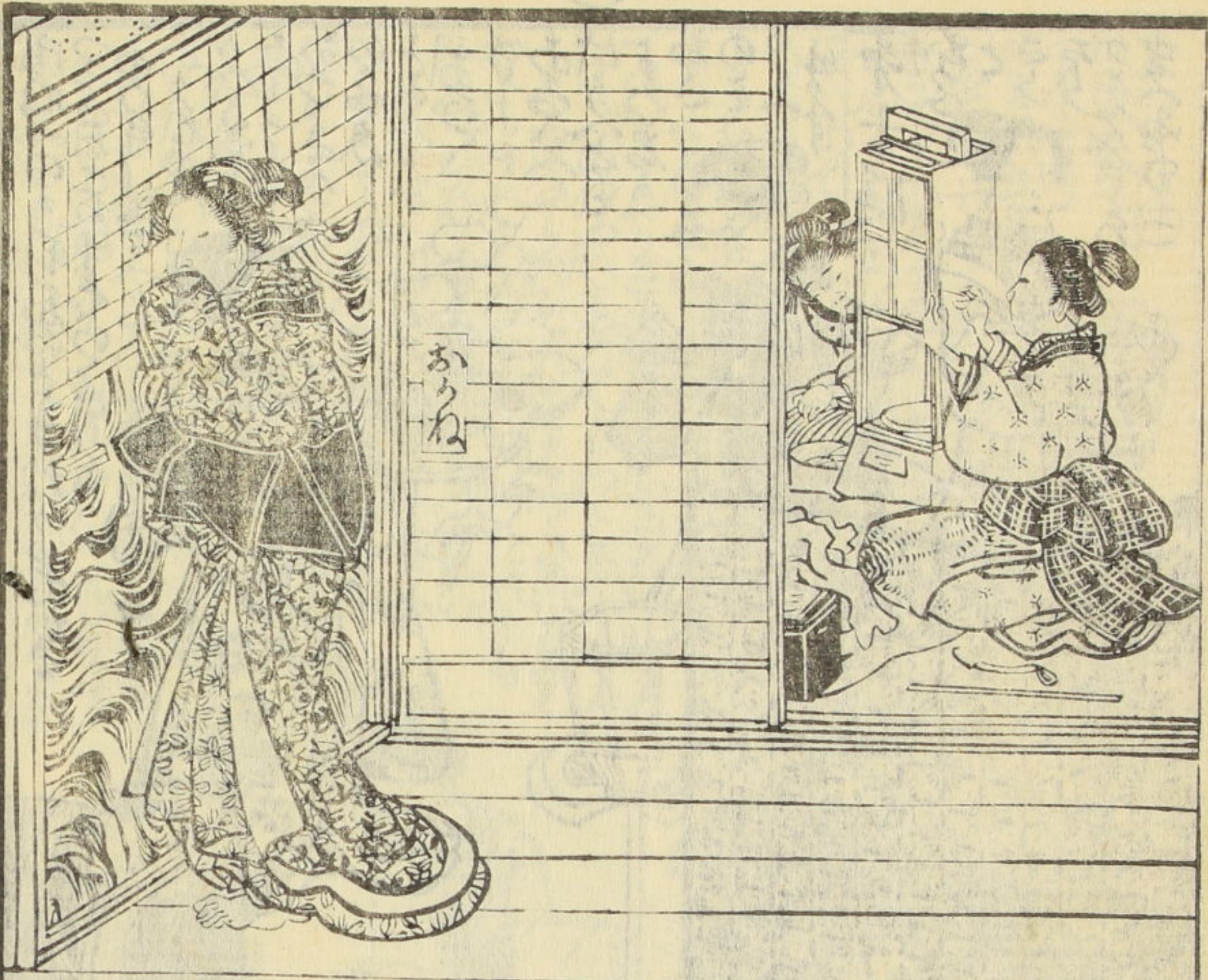
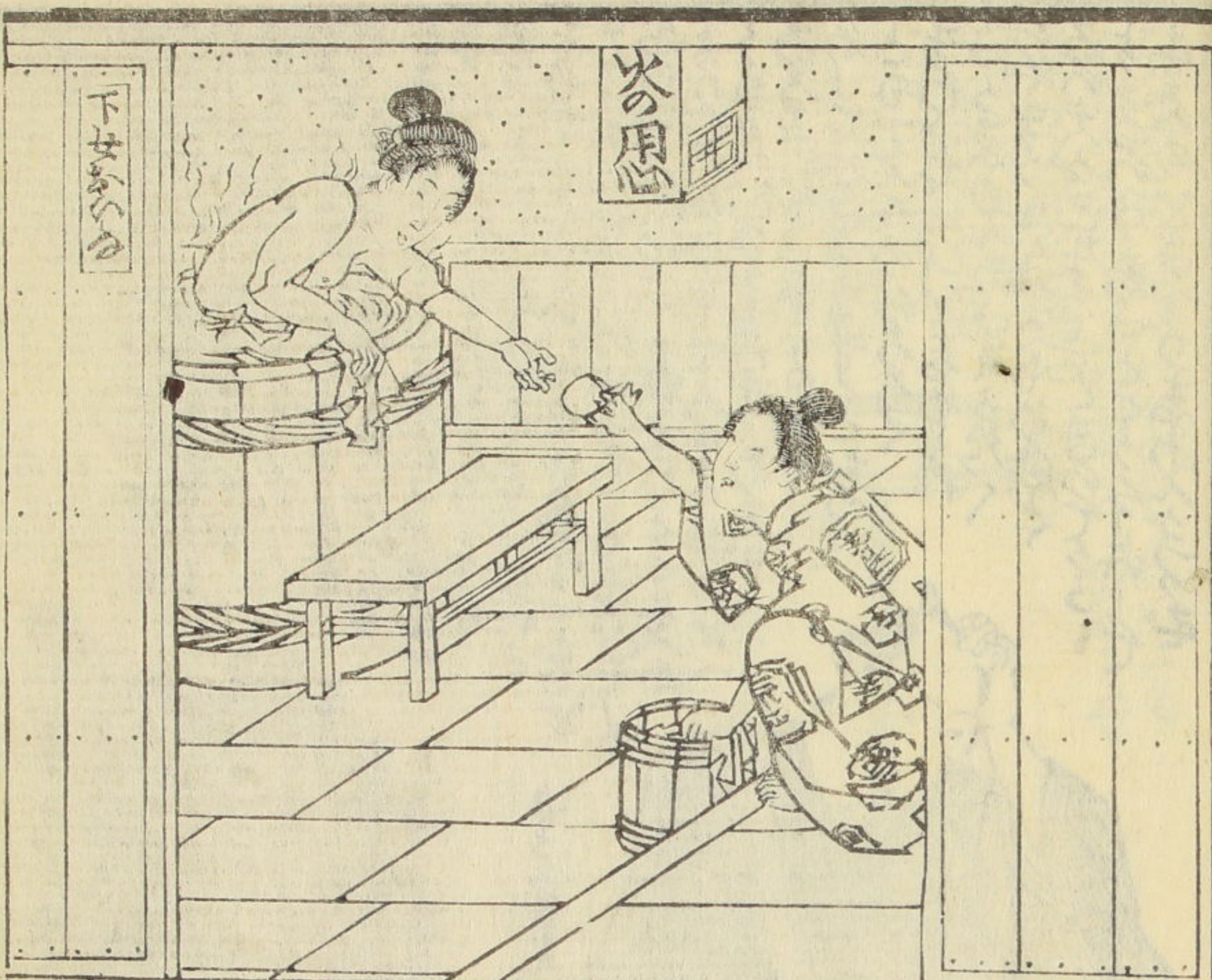
次へ



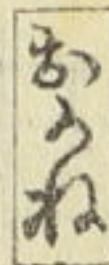


才九の辰

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

たる王



二子どうむべたのの考ある天へ
 さまうちとのふののとて
 わへのふちへ子を中へあ
 のとてあつたてても用ふたぬ
 のありされど廿百人は百人
 であらう子どうむべたやうなれど
 せんまふたの二つのやまひるり
 そのやまひでふるやせまふ
 子とまうけふのふ

●江戸薬師の秘傳
二丁目衆傳をせ
て女をも其茶
男大いんや
うの東丹ぢり
やく一丸ふすま
二かみ下女の月
中も内にとり
むすめ男がう
ちにおおきにそとあ
つた人のごときなの
をいふおもしろなる
十二味茶あり小粒
一袋百二十せん
中一のきと良し

四

